

「平成29年度第1回座間市総合教育会議」会議録

1 日 時 平成30年2月7日（水） 午後1時30分～

2 場 所 市民文化会館（ハーモニーホール座間）大会議室

3 構成員

遠藤市長、金子教育長、小井田教育委員長、鈴木教育委員長職務代理者、天野教育委員、馬場教育委員

4 事務局及び教育委員会職員

企画財政部長、企画政策課長、企画政策係長、主事2名、教育部長、教育総務課長、教育総務課庶務経理係長、教育総務課施設係長、学校教育課長、保健給食担当課長、教育指導課長、教育研究所長、生涯学習課長、図書館長、座間市立栗原小学校長、座間市立入谷小学校長

5 傍聴人 20人

6 議 題

<報告事項>

- (1) 学校における防災教育について
- (2) アーン小学校との国際交流について

7 会議録

（企画政策課長）

会議の開会に先立ち、お伝えする事項があります。

本日の総合教育会議の傍聴について、傍聴受付名簿のとおり20名の会議傍聴の申し出がありました。本会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4第6項の規定により、非公開とする必要がある場合を除いて公開とされています。

また、「座間市総合教育会議設置要綱」第4条の規定により、議長がこれを許可するものとしておりますので、まず、この会議の主宰者である市長から本日の会議の傍聴の許可について、お諮りいただきたいと思っております。

(市長)

それでは、本日の次第案件について、傍聴を許可したいと思います。委員の皆さん、これに異議はありませんか。

〈※異議なしの声〉

傍聴を許可します。

傍聴者の入室を誘導してください。

(企画政策課長)

皆さん、こんにちは。

それでは、ただ今から平成29年度第1回座間市総合教育会議を開会します。次第2、本日の案件ですが、報告事項が2件あります。

本会議は、「座間市総合教育会議設置要綱」第3条の規定により、市長が議長になることとしていますので、以後の進行は市長にお願いしたいと思います。

(市長)

皆さん、こんにちは。

平成29年度第1回座間市総合教育会議の開催に伴い、御挨拶申し上げます。

本市では平成27年度の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」の施行に伴い、この「座間市総合教育会議」を設置しました。

総合教育会議は地方公共団体の長が招集し、教育に関する大綱の策定、教育の条件整備など重点的に講ずべき施策、児童・生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置等について、首長と教育委員会とが同じ方向性の下、相互に連携して効果的に教育行政を推進していくために協議・調整を行う場として設置した経緯があります。

本市においては、常日頃から市長部局と教育委員会とが密に連携しており、今年度については調整すべき事項が特段なかったことから、年度末のこの時期に今年度の総合教育会議を開催することとなりました。

本日は、2件の報告事項があります。委員の皆さんにおいては専門的な見地から、また、日頃から教育行政に携っている経験を基に、これからの座間市を担っていく子ども達の幸せのため、そして今、本市で生活を営んでいるすべての市民の方々の健やかな生活のために、活発な議論を期待しています。

それでは早速ですが、はじめに案件1つ目、「学校における防災教育について」進めたいと思います。それでは、事務局から報告をお願いします。

(教育指導課長)

それでは、「学校における防災教育について」ですが、入谷小学校長から報告します。

(入谷小学校長)

「学校における防災教育について」報告

- ・座間市の教育について
- ・小学校における防災教育について
- ・小中合同引き渡し訓練の取組について
- ・座間市防災教育研究指定校（座間小学校）の取組について
- ・市内小学校4年生の取組について
- ・総合的な学習の時間を使った学校の取組について
- ・行政・地域との連携について
- ・座間市防災教育研究指定校（入谷小学校）の取組について
- ・防災教育の今後の方針について

(市長)

ただ今、入谷小学校長から事例発表がありました。何か質疑・意見等があればお願いします。

(委員)

私は、先ほど事例発表された研究に少しだけ携わったので、その立場からこれまでの学校防災について振り返りながら、お話しします。

先ほどの説明にもあったとおり、学校現場での防災教育の在り方、避難訓練の在り方が大きく変わったのは、何と言っても3.11の「東日本大震災」からです。この震災で、どう判断し、行動に移したかで生死が大きく分かれるという衝撃的な事実を突き付けられました。命を守るために、子ども達に防災の知識や力を付けなくてはいけないと、必要性を強く感じたわけです。

それまでも防災教育としての避難訓練はありました。毎年同じような、学校で行う訓練でした。その当時は、それがベストな訓練だと受け止めていたわけです。つまり、地震が起きるそのとき、子ども達が学校にいて、脇に先生がいるという限られた想定下での訓練でした。

しかし、地震はいつ起きるか分からないし、そのとき、自分の命を守るだけの知識や力がどこまで付けられていたかという、大きな疑問符が付くのが以前まで実施していた避難訓練です。また、想定外の災害状況、条件下によっては、いつも訓練していることが逆効果である場合も考えられました。更に保護者の引き取り訓練に関しても、まだまだ中学校との連携はできておらず、実際の避難訓練とは言えなかったと私は思っています。

先の大震災の悲惨な被害状況を目の当たりにし、自校の防災計画を慌てて見直しをする学校も

出始める中で、災害対応マニュアルを策定しました。その後、行政や中学、地域とタイアップし、校長会としての共同研究が始まりました。来週予定している小学校教育研究会では、市内全小学校の教職員に向けてこの校長会及び入谷小、座間小の研究成果、そして、これからの防災教育の在り方が提案されるということで、校長先生や先生方皆さんの熱意を感じます。研究を深めていただいたことに感謝しています。

いざそのときのために、子ども達に必要な知識や力を付けること、そして、自助・共助の心は思いやりの心の産物、今後の学校防災教育がより充実されることを期待したいと思います。

(委員)

私は委員ですが、保護者の立場でもあるので、その観点からお話します。

まず、学校で防災教育をしているということ、「東日本大震災」がありましたが、備えなければいけないと思いつつも、日々の忙しさからおざなりになっていて、家族の中で取り決めようというところまでは正直なかなかいかなかった中で、学校でこのような防災教育をして、子ども達が家に帰ってきてから我が家でも話し合いました。きっと、各家庭でも話し合ったことと思います。どこで集合するか、どのように連絡を取り合うか、何を用意するか。「伝言ダイヤル」までは私もやったことがなかったです。感謝の言葉しかないです。

(委員)

自助・共助の精神、考え方、大変素晴らしい重要な取組だと思います。早めに全国で実施してほしいと思います。

また、私は長らく座間の郷土史に携わってきましたが、その中から提案として子ども達により近くに災害を感じてもらうため、例えば、過去に座間で起きた大震災、相模川の洪水被害、富士山の大噴火が座間や近隣にもたらした被害の甚大さ、いかにして先人達が乗り越えてきたのか、「関東大震災」については、子ども達にとって祖父母、あるいは曾祖父母が体験したものの聞き取り調査をすることによって、肌で感じてもらえると思います。是非、資料等も活用してもらいたいと思います。

(委員)

ただ今、入谷小学校長から学校の取組について、御報告いただきました。その中でも、学校の取組に対して行政からの支援、あるいは御理解も非常に良くされていると思います。

そこで、もう一度、学校で取り組んでいることと、市が取り組んでいることとのすり合わせと言いますか、その辺のところを確認したいと思います。

例えば、学校が避難場所であることがありますが、その場合に学校と市の指揮系統が矛盾すると困るわけです。そこで、市の指揮系統を教えてくださいたいと思います。

(企画財政部長)

座間市の防災に関する施策として、大きく3つの訓練に取り組んでいます。

まず1つ目としては、「シェイクアウト訓練」です。先ほどのスライドの中で、小学校、中学校の様子がありましたが、毎年1月23日に実施しています。1分間、その場で我が身を守るという訓練内容で、平成30年1月23日の訓練には、座間市の昼間人口の5割を4年連続で上回る52,804人の皆さんに参加登録していただきました。座間市のシェイクアウト訓練は、東京都千代田区に次いで国内で2番目に始めた取組で、訓練実施後に避難訓練や安否確認、備蓄品の確認など、更にもう一行動加える「プラスワン訓練」を独自に企画・実践しているのが特徴です。

2つ目としては、「避難所開設・運営訓練」です。地域住民で構成される避難所運営委員会にて作成された「避難所運営マニュアル」に基づき、避難所の開設・避難訓練を行っています。避難所の開設準備、施設点検、炊き出し訓練、備蓄資器材の展開などを地域の皆さんと施設管理者、避難所開設担当者である座間市の職員が協力して行っています。

3つ目としては、本市独自の「総合防災訓練」です。これは毎年1回、9月の第一土曜日に実施しています。主な内容としては、避難誘導訓練及び初期消火訓練、救助救出訓練、人命救助訓練などがあり、市民と一体となった訓練を心掛け、自衛隊や警察とも連携して実施しています。また、訓練後には必ず振り返り、一旦問題点などを抽出し、次につなげています。

(委員)

私は、報告を受けて注目した点が3点あります。

1点目は、座学に加えフィールドワークがある点です。先生方が地域を歩いて、道路の危険な箇所を調べる。また、その際にここはどうしたら良いか、そして、自分には何ができるか、そういった実践的な訓練を行っており、素晴らしいと思いました。

2点目は、各家庭の意識に差があるということがあり、地域をどう巻き込んで、どう連携して取り組んでいくかということに着目して実践し、その結果、次の年にはアンケート調査で数値が非常に高くなっているということで、嬉しく思いました。

3点目ですが、座間小、入谷小、この研究校だけの問題ではなく、小学校11校全校が一緒に取り組んでいるということ、更には中学校6校も巻き込んで一緒になって取り組んでいること、本当に全市的に取り組んでいる、私としては嬉しい限りです。

単に語り継ぐ、教えることだけではなく、訓練をやり続けるということが大事なかと、訓練を続ければ家庭が変わり、根付いていくのかなと、そんなことを思わせる、教育の持つ力のすごさというものを感じさせてもらいました。ありがとうございました。

(市長)

ありがとうございます。

入谷小学校長の言葉にあったように、「豊かな心を育むひまわりプラン」がスタートするという平成23年4月、その20日前にあの震災が起これ、これはもう私ども座間市だけではなく、全国が等しく災害が起こったときにどうやって身を守るのか、将来を託す児童・生徒達にしっかり生き残ってもらわなくてはいけないということで、神奈川でいち早く、本当に忙しいカリキュラムの中に、防災という観点からの教育を盛り込み、更に小学校11校、中学校6校、座間市内の公立学校全部を挙げて、積極的にこの課題に取り組んでいる姿を目の当たりにして、頼もしいという思いと感謝感銘の気持ちでいっぱいです。

さらに、教育委員会で定めた「豊かな心を育むひまわりプラン」と、こういう観点からもその中にしっかりうたいこまれた教育目標というものが防災教育を通して実践され、児童・生徒の中に根付いてきているということが、素晴らしい教育が実践されたということを実感した次第です。

座間市は、大体日本の人口の1,000分の1です。そして、御存知のとおり日本全国から今の児童・生徒達のお父さんお母さん、お爺さんお婆さんの代に移り住んできた方達が大半です。その中で私も、都市を預かる首長の立場として、ある面では防災教育のモデル校、そして、実際の研究指定校ということで対応された学校もありますが、私達が、日本全国の一つのミニチュアとして、モデルとなるのではないかと日頃から思えてなりません。

その中で、市長部局としてもあらゆる形で防災に関する取組を進めていきますが、何より次代を託す児童・生徒が自覚を持ってきちんとこれを受け止めてくれれば、これから5年10年15年と将来に渡って、大きな無形の財産になると思いますし、私達座間市の誇るべき伝統になると思っています。

このように、皆さんとシェアできていること自体が大変有難いと思いますし、こうしたことを確認できるという場が、総合教育会議の場にあるということ自体が大変有難いと思っています。

それでは、2つ目の報告に入りたいと思います。本日の案件2つ目、「アーン小学校との国際交流について」、これは、午前中にアーン小学校に訪問されたというまだ湯気が立っている状況だと思っています。それでは、事務局から報告をお願いします。

(教育指導課長)

それでは、「アーン小学校との国際交流について」ですが、栗原小学校長及び国際交流担当教諭から報告します。

(栗原小学校長)

「アーン小学校との国際交流について」報告

- ・これからの小学校における英語教育について
- ・アーン小学校について
- ・アーン小学校との交流会（平成29年10月28日実施）について

- ・アーン小学校からの招待（平成30年2月7日実施）について
- ・アーン小学校との交流から得られた成果、今後の方針について

（市長）

ただ今、栗原小学校長、教諭から、去る10月26日の栗原小学校へのアーン小学校の訪問と、本日、午前中に栗原小学校の6年生がアーン小学校を訪問したという報告がありました。

教育委員の皆さんの中にも、随行された方もいると伺っていますので、その辺りも含めて意見、指摘等があればお願いします。

（委員）

本日、一緒に訪問した中で、一言お話しします。

先ほどの栗原小学校長の報告にあったように、アーン小学校の温かなおもてなしの心が感じられた交流の時間だったのではないかと思います。少人数で交流活動を準備していただいたこと、アーン小学校の心遣いを感じました。帰る際には、最初は本当に緊張していた子ども達が、名残惜しそうに「さようなら」と互いに笑顔で手を振り合っている、その姿がとても印象的でした。

今回の栗原小とアーン小との交流活動、これは本当に子ども達の国際感覚を磨く、価値のある体験学習だったと思います。何と言っても、小学生なりに立派な親善大使の役割をこなしたのではないかと、すごいことをやったと思います。子ども達にとっても大変良い思い出の交流だったのではないかと思います。

ところで、私は学びへの意欲を持たせるためには、子どもにその学びの意義、良さを感じさせることが何よりも大事かと常々思っています。実際に、今日、子ども達の様子を見て、小学生にとって慣れない英語への興味・関心を更に高めるためには、このような交流活動は有効であると感じました。なぜならば、今日の交流の様子、子どもの表情にそれが表れていたからです。

これも先ほどの報告の中にありましたが、仲良くなりたいのに言葉が通じない、英語を話せさえすれば、話せるようになれば、もっと楽しく交流ができるのという思いが、子ども達の表情に出ていました。つまり、その思いこそ大事、持たせることこそ大事、これが自然に学びへの意欲につながっていくと思います。

御存知のように、次期学習指導要領から中学年には新規に外国語活動が入ります。高学年は、英語が教科化されるということです。学校現場では、子ども達にいかに関心・興味を持たせるかということが勝負になるかと思っています。乱暴な言い方かもしれませんが、学習の仕方次第で子ども達が英語嫌いになることもあると思います。英語の授業に慣れていない小学校の先生には、それが一番の懸念材料なのではないかと思います。今回の交流活動体験、これはやるだけの価値がある、有効な方法の一つだと思います。

子ども達が英語を話せるようになりたい、心からそう思えるように工夫をしていただくことを

期待しています。そして、先生も子どもと一緒に思い切り英語の授業を楽しんでしまう、楽しんでもらいたい、それが私の願いです。

(委員)

授業の中で、今日、アーン小学校のネイティブな英語を話す子ども達と交流したことは、大変重要なことであると思います。ネットなどを通じて、姉妹都市であるスマーナ市ともそういったことができないだろうかと思いました。是非これからも期待しています。

(委員)

午前中、私もアーン小学校と一緒に行きました。広々とした中にあり、外国に行かずとも文化の違いを感じられたのではないかと思いました。

英語については、興味を持つところからスタートすると思います。また、おもしろいと思えるからこそ自分で調べようと思う、そうなれば続くということで、私も英語は苦手なため、子ども達が苦手にならない授業を期待しています。

(委員)

私は、残念ながらアーン小学校に訪問できなかったのですが、英語を苦勞しながら使わなくてはいけない、昔みたいに読み書きだけではなく、話す。中学校の先生は、皆さん発音が堪能ですが、昔はそんなことはなかった。

もう一つは、今、先生方が色々な形で協力していること以外に、どうしても英語、言葉というのは、そもそもある状況の中である脈絡、文脈の中で何をどう話すかということの経験があって、それで段々上達するものです。ただこういう文章があって、これがどうだとかではない。子ども達には、できるだけそういう機会を増やすことが、学校の授業以外にも必要だと思います。

例えば、イギリス映画ではきちっとした発音をしています。アメリカでも西部時期くらいだと発音がきれいです。あるいは、NHKで放送している英語の番組だとか、そういうものをうまくアレンジして行って、できるだけ子ども達に英語がどういう状況でどう話されているのか、それが自分で入ってくるように耳のトレーニングをしてもらい、それと同時に先生方に考えてもらい、そういうことを週に何回か、どういう状況でどう話されているのかを納得するということが学校教育以外にできればと思います。

(委員)

先生方が悩んでいるのは英語なのかなと、私は想像をしています。今日、アーン小学校に行かせてもらい、校長先生や教諭の熱意というか、そういうものに刺激を受けながら、交流会を見させてもらいました。

子ども達が生き生きとしており、私はダウエンドリン校長先生に案内されてほかの学校施設も見せてもらいました。日本の学校との違いを感じさせてもらい、日本の教育とアメリカの教育との違いを、今日は勉強させてもらいました。壁に貼ってあった子ども達の作品を見ても、色使いからして日本人とはやっぱり違う。日本人の子は淡い感じの色使いになっているが、対して原色をどんどん使っているという印象を持ちながら、違いを知るということも大事なことで、この歳になって新たに勉強させてもらいました。ありがとうございました。

(市長)

実は、この会場に来る前に、1階でビエンナーレの国際児童画展、世界各国の小学生、中学生ぐらいの子ども達の絵が飾られています。今、委員が言いましたように、日本の子の絵はすぐ分かります。基本的な構図を取っているとか、色使いもそうですし、描写力とかそういうものについても、これはと思うと日本の子の絵です。これは、グローバルな視野で見ると非常に面白いので、是非ご覧になってお帰りいただければと思います。

御報告いただきましたアーン小学校との交流は、本当に素晴らしいものだと思います。これも座間らしい、座間にしかない「地域資源」として、ここに招き入れ、アメリカ人の子弟達がお父さんお母さんの仕事の関係からここに住み、彼らの学校に通えている、まさにアメリカンスタイルの学校が身近にあり、費用を掛けずに実際に生の交流ができる、素晴らしい実地体験ができる、それを活用してもらったということで、市を預かる立場として教育委員会の方々に心から敬意を払いたいと思います。

先ほどの防災教育の中で、入谷小学校長から私が「八郎」の読み聞かせをしていることについて触れていただいたのですが、「八郎」の読み聞かせには2つの意図があります。一つは人の命の大切さ、そして、人を思いやる心、人のために何かを成すということの崇高さというものを感じ取ってもらいたいということと、もう一つは秋田の難解な言葉でこれを伝える中で、コミュニケーションというものは、言葉よりもそれ以外の部分の方が大きいということを見聞・生徒に体感してもらった中で、英語、外国語という大きなハードルに思えることが、実は低いものだという事で、抵抗感を少しでも払拭してもらいたいという気持ちを持って行っています。

人と人とのコミュニケーションの中で、あるアメリカの研究者の研究書によると、「言葉」でのコミュニケーションというのは全体の中での7%にすぎない、あとは身振り手振り、相手の目、表情、それからその場の雰囲気、これはどっちがどっちだったか分からないのですが、38%と55%という値があって、全体に占める「言語」というのは7%にすぎない。言われてみると、実感できることがたくさんあると思います。おそらく、今日もアーン小学校に行った6年生の子ども達は、まさにそれを実感したのではないかと思います。

この前、10月26日にアーン小学校の子ども達が訪ねてきて、「『箒』って何て言うんですか」、「『惜しい』って何て言うんですか」と教諭に訪ねた子どもがいたと言いましたが、「惜しい」、「箒」

というもおそらく子ども達は、その言葉を知らなくても表情や身振り手振り、ジェスチャーで相手に伝えることができたのではないかと思います。そして、こういったことを生で経験すれば、あともうひと押し、この言葉を実際に学ぶことができれば、相手と本当に素晴らしいコミュニケーションを取ることができるということに気付いてくれるのではないかと思います。

このアーン小学校との交流というのは、子ども達にとっておそらく、私達が思っている以上に将来振り返ってみるとあれがきっかけだったというふうになるのではないかと思います。

更にもう一つは、先ほどより大きな話なのですが、こうした資源というのは、日本広しと言えどもそう持っているところはないと思います。これは色々な考え方がある中で、素直に活かしていこうという姿勢を示してもらった今回の取組については、本当に大いに敬意を表したいと思います。また、これもやはり先ほどの「ひまわり学習プラン」に沿った座間らしい教育、そして、こうした大人になってもらいたいということをしっかり練り込むことができている、私も非常に感銘を受けている一人です。

どうか、この地域資源、これから市内の小学校それぞれ、今度はハイスクールもキャンプの中にあるので、学校現場の先生方がなんらかのそうした地域資源を活かしたいということであれば、市長部局としてもきちんと渉外担当を窓口にして、お手伝いしたいと思います。

(委員)

最後に一つだけいいですか。中学校も、部活動のスポーツ交流などがあっても良いのではないかと思います。

(市長)

それも是非、あれば伝えていきたいと思いますし、やはり多感な時期に交流するということは非常に良いことではないかと思います。

今日は大変中身の濃い2つの報告について、この場で共有しました。大変意義のある総合教育会議ができたのではないかと思います。ほかに何かありませんか。

特にないようであれば、進行を事務局に返したいと思います。

(企画政策課長)

本日はお忙しい中、総合教育会議に御出席いただきありがとうございました。

以上をもって、平成29年度第1回座間市総合教育会議を閉会します。皆様、お疲れ様でした。